

～～～～～～～～～～～～～～～～

ニュース JAFIC EYE №159

2020 年上半期の産地市場における主要魚種の動向

～～～～～～～～～～～～～～～～

JAFIC が調査している全国主要 68 港における 1～6 月の調査対象全魚種の累計水揚量は 92 万 6 千トンで、前年同期(96 万 8 千トン)の 96%とやや減少した(表 1)。

1～6 月の平均価格は 166 円/kg で、前年同期(174 円/kg)の 96%とやや弱含みであった。平均価格は 1 月には前年を上回ったものの、2 月以降は 5 月を除き前年を下回った。

表 1. 全国の 1～6 月の水揚量(t)と平均価格(円/kg)

月	2020年		2019年		前年対比	
	水揚量	価格	水揚量	価格	水揚量	価格
1	111,068.5	217	152,494.7	185	73%	117%
2	154,248.6	174	140,231.2	192	110%	91%
3	174,453.9	139	173,860.6	152	100%	92%
4	152,294.3	145	175,400.4	163	87%	89%
5	173,294.3	162	188,090.1	160	92%	101%
6	160,271.3	176	138,110.5	201	116%	88%
合計	925,630.8	166	968,187.7	174	96%	96%

(以降出典：おさかなひろば (JAFIC))

主要 47 魚種の 1～6 月の魚種別の累計水揚量と平均価格は表 2 のとおりである。水揚量は、ビンナガ、ホッケ、生鮮スルメイカなど 16 魚種が前年同期を上回り、そのうちビンナガ、ホッケ、マイワシなどは過去 5 年で最高水準であった。たこ類など 6 魚種は前年同期並みであった。ウルメイワシ、カタクチイワシなど 25 魚種は前年同期を下回り、そのうちウルメイワシ、カタクチイワシ、生鮮カツオなどは過去 5 年で最低水準であった。平均価格は、生鮮カツオ、カタクチイワシ、ウルメイワシなど 9 魚種が前年同期を上回り、マアジ、マイワシなど 6 魚種が前年同期並み、トラフグ、うに類(剥き身)、養殖ハマチ、養殖マダイなど 32 魚種が前年同期を下回った。

表 2. 1～6 月の産地魚種別水揚量(t)と平均価格(円/kg)
(2019 年の平均単価昇順に並べ、1,000 円/kg 以上の魚種を赤字で示す。)

	1～6月						1～12月
	2020年		2019年		前年対比		2019年
	水揚量	価格	水揚量	価格	水揚量	価格	価格
マイワシ	279,736.3	44	228,860.2	43	122%	102%	41
ニシン	3,234.3	57	4,374.6	55	74%	104%	52
スケトウダラ	65,109.5	47	51,078.9	67	127%	70%	58
カタクチイワシ	6,254.8	62	13,591.5	52	46%	120%	58
ウルメイワシ	4,644.9	74	15,372.6	66	30%	112%	76
ホッケ	7,394.8	37	3,890.1	107	190%	35%	81
さば類	184,835.1	96	252,150.3	99	73%	96%	105
ほたてがい殻付	14,560.0	137	14,202.8	162	103%	84%	158
冷カツオ	63,031.5	193	99,258.7	176	64%	110%	171
マダラ	21,845.9	154	20,366.8	200	107%	77%	227
マアジ	46,502.6	205	44,928.2	206	104%	100%	230
ブリ	22,748.3	237	20,791.5	289	109%	82%	251
生カツオ	7,555.3	481	14,421.5	369	52%	130%	306
冷キハダ	31,445.3	271	28,061.7	341	112%	79%	311
かれい類	8,620.8	225	7,399.5	267	117%	84%	312
ビンナガ	34,206.8	327	12,266.5	453	279%	72%	478
ヒラマサ	662.5	484	686.6	539	96%	90%	480
さわら類	779.4	599	1,289.2	636	60%	94%	552
マカジキ	735.7	533	672.6	611	109%	87%	562
たこ類	2,434.8	504	2,442.0	578	100%	87%	570
生スルメイカ	8,422.5	480	5,351.4	565	157%	85%	645
冷スルメイカ	1,038.4	1,014	936.8	703	111%	144%	645
ギンザケ(養殖)	8,992.9	504	9,525.3	665	94%	76%	665
サザエ	193.8	541	235.4	717	82%	76%	679
マダイ(天然)	2,002.6	588	2,374.1	753	84%	78%	730
ヤリイカ	1,329.2	779	1,420.8	755	94%	103%	740
生キハダ	4,895.8	766	6,475.3	776	76%	99%	750
メジマグロ(ヨコワ)	104.2	1,097	189.2	957	55%	115%	753
冷メバチ	12,756.2	676	11,760.4	840	108%	80%	812
マダイ(養殖)	180.9	660	120.3	972	150%	68%	910
ハマチ(養殖)	72.6	707	68.2	988	107%	72%	916
ヒラメ(天然)	884.2	773	966.7	946	91%	82%	997
アカムツ(ノドグロ)	216.0	1,007	305.2	842	71%	120%	1069
メカジキ	1,688.9	1,040	1,422.9	1,127	119%	92%	1095
生メバチ	2,575.4	1,055	2,244.9	1,131	115%	93%	1131
キンメダイ	768.6	1,331	870.2	1,551	88%	86%	1656
クロマグロ	2,366.6	1,780	2,635.6	1,586	90%	112%	1680
冷ミナマグロ	1,114.3	1,956	1,448.5	1,786	77%	110%	1738
あなご類	606.6	1,645	831.2	1,825	73%	90%	1741
ヒラメ(養殖)	3.8	1,591	6.8	1,820	56%	87%	1934
あまだい類	83.0	1,900	80.2	2,061	104%	92%	2118
キンキ(キチジ)	424.4	2,058	438.1	2,367	97%	87%	2798
イセエビ	21.6	3,893	30.4	4,497	71%	87%	4348
クルマエビ	5.4	4,542	10.7	5,313	51%	85%	4754
トラフグ	16.7	2,034	77.2	5,311	22%	38%	5406
あわび類	12.8	5,554	22.4	7,041	57%	79%	7663
うに類(剥き身)	71.8	8,382	77.5	11,645	93%	72%	13312

4 月は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う緊急事態宣言が発令された月であり、5～6 月も新型コロナウイルスの流行に伴う外出の自粛要請や飲食店の営業時間の制限など新型コロナウイルスの影響が続いた。このため、4～6 月に着目し、主要 47 魚種の魚種別の累計水揚量と平均価格をとりまとめたものが、表 3 である。また、4～6 月の水揚量と平均価格を前年同期と比較したものが図 1 である。全 47 魚種のうち、前年から

価格を上げたのは 7 魚種、前年並みが 4 魚種、価格を下げたのは 36 魚種で、多くの魚種で価格を下げた。このうち、水揚量が前年同期を下回ったにもかかわらず、価格を下げた魚種は、トラフグ、あわび類、クルマエビ、マダイ(天然)、ヒラメ(天然)など 16 魚種であった。特に 1,000 円/kg 以上の高価格魚の多くが前年同期を下回った。

表 3. 4～6 月の産地魚種別水揚量(t)と平均価格(円/kg)
(2019 年の平均単価昇順に並べ、1,000 円/kg 以上の魚種を赤字で示す。)

	4～6月						1～12月
	2020年		2019年		前年対比		2019年
	水揚量	価格	水揚量	価格	水揚量	価格	価格
マイワシ	137,928.3	41	133,784.7	40	103%	102%	41
ニシン	1,405.9	30	2,347.6	36	60%	82%	52
スケトウダラ	43,154.5	37	35,911.5	56	120%	67%	58
カタクチイワシ	3,976.7	52	7,669.0	50	52%	103%	58
ウルメイワシ	2,674.7	64	11,615.5	61	23%	105%	76
ホッケ	6,393.8	32	2,876.0	110	222%	29%	81
さば類	65,099.3	86	81,056.8	80	80%	108%	105
ほたてがい殻付	13,517.1	131	13,510.5	154	100%	85%	158
冷カツオ	33,429.0	184	57,149.5	165	58%	111%	171
マダラ	8,079.0	132	6,883.0	188	117%	70%	227
マアジ	29,648.4	189	29,894.4	200	99%	94%	230
ブリ	10,198.3	162	10,276.3	193	99%	84%	251
生カツオ	6,440.8	457	11,418.9	362	56%	126%	306
冷キハダ	14,578.2	272	13,104.3	324	111%	84%	311
かれい類	4,917.4	200	4,131.9	256	119%	78%	312
ビンナガ	29,294.6	304	6,682.6	433	438%	70%	478
ヒラマサ	361.7	488	527.3	478	69%	102%	480
さわら類	338.4	478	641.5	552	53%	87%	552
マカジキ	248.4	426	321.0	488	77%	87%	562
たこ類	1,428.5	479	1,463.8	546	98%	88%	570
生スルメイカ	6,702.8	445	3,903.2	562	172%	79%	645
冷スルメイカ	44.4	377	2.6	479	1713%	79%	645
ギンザケ(養殖)	6,655.3	509	5,855.7	672	114%	76%	665
サザエ	107.6	529	148.2	734	73%	72%	679
マダイ(天然)	1,170.6	469	1,417.7	698	83%	67%	730
ヤリイカ	339.5	961	321.7	1,012	106%	95%	740
生キハダ	3,603.0	613	4,314.3	646	84%	95%	750
メジマグロ(ヨコワ)	64.2	1,070	104.2	875	62%	122%	753
冷メバチ	5,675.2	555	5,466.0	881	104%	63%	812
マダイ(養殖)	84.6	582	59.8	929	141%	63%	910
ハマチ(養殖)	36.3	617	21.6	908	168%	68%	916
ヒラメ(天然)	505.7	552	616.2	796	82%	69%	997
アカムツ(ノドグロ)	109.4	933	159.6	1,022	69%	91%	1069
メカジキ	789.4	990	616.4	1,049	128%	94%	1095
生メバチ	1,315.9	651	953.9	928	138%	70%	1131
キンメダイ	396.8	1,145	476.6	1,508	83%	76%	1656
クロマグロ	2,012.0	1,570	2,227.8	1,386	90%	113%	1680
冷ミナマグロ	396.7	1,934	466.8	1,799	85%	107%	1738
あなご類	163.7	662	211.6	841	77%	79%	1741
ヒラメ(養殖)	1.3	1,887	3.5	1,868	38%	101%	1934
あまだい類	36.2	1,497	47.1	1,868	77%	80%	2118
キンキ(キチジ)	216.2	2,004	235.7	2,330	92%	86%	2798
イセエビ	13.3	3,244	21.0	4,164	63%	78%	4348
クルマエビ	1.8	4,165	5.9	5,798	31%	72%	4754
トラフグ	3.6	878	17.6	3,057	21%	29%	5406
あわび類	5.3	4,962	9.8	8,238	54%	60%	7663
うに類(剥き身)	50.4	7,049	46.9	11,526	108%	61%	13312

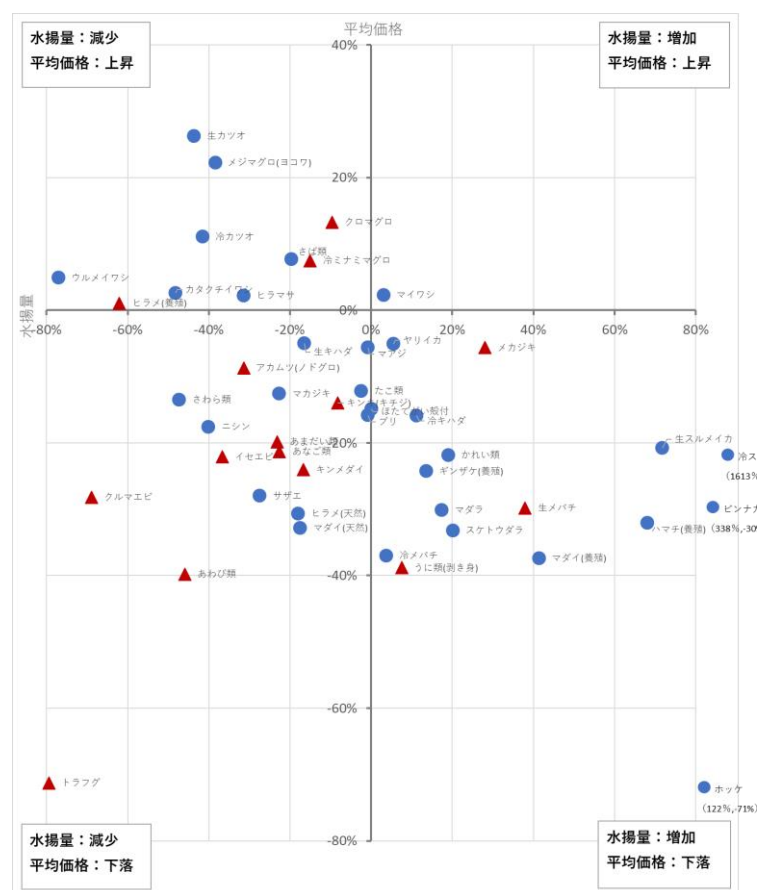


図 1. 主要 47 魚種の水揚量と平均価格の比較 (2020 年 4～6 月／2019 年 4～6 月)
(x 軸、y 軸の目盛に記載した％は、前年同期(4～6 月)比の増減率を示す。▲は 2019 年の平均価格が 1,000 円/kg 以上、●はそれ未満の魚種を示す。目盛の範囲外にある冷スルメイカ、ビンナガ、ホッケについては、水揚量と価格の増減率をカッコ内に示す。)

代表的な魚種の 1～6 月の動向は、次のとおりである。

- ① アカムツ(ノドグロ)は、本年 1 月時点で前年の平均価格を上回る 1,208 円/kg であったが、新型コロナウイルスの流行が拡大した 3、4 月には 800 円/kg 台まで値を下げた。そ

の後は若干回復したものの、前年を下回る価格で推移している(図 2)。

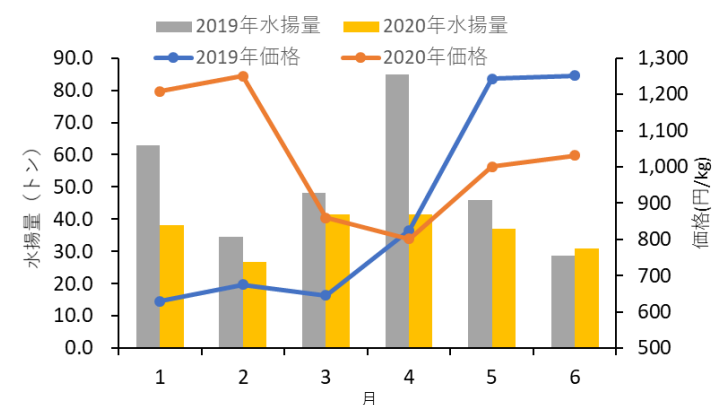


図 2. アカムツ(ノドグロ)の水揚量と価格の推移

- ②アワビでは、平均価格は本年 1 月時点で前年をやや上回り、2 月にはほぼ前年並みであった。3 月も 2 月並みの価格を維持したが、4 月には、3 月から 1,400 円マイナスの 4,621 円/kg まで下落し、5 月も同様であった。6 月には 5,628 円/kg まで価格を戻したものの、前年のほぼ半値であった(図 3)。

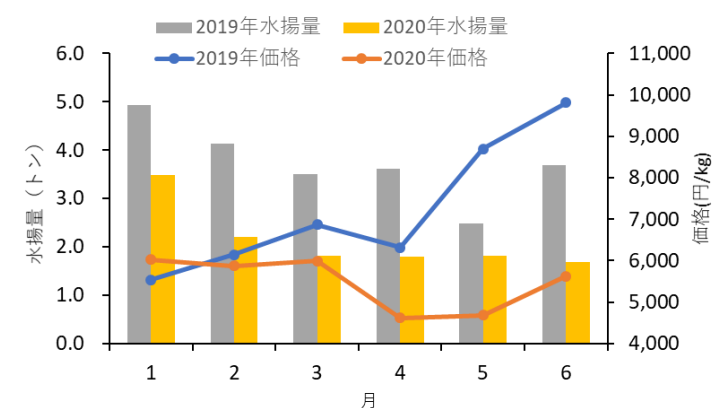


図 3. アワビの水揚量と価格の推移

- ③養殖マダイは、ここ数年、需要が弱く価格が低迷しており、本年 1 月時点の平均価格は前年を下回る 781 円/kg であった。

その後、更に価格を下げ、5 月には 541 円/kg まで下落した。6 月には 595 円/kg とやや回復したものの、前年を大きく下回る価格であった(図 4)。

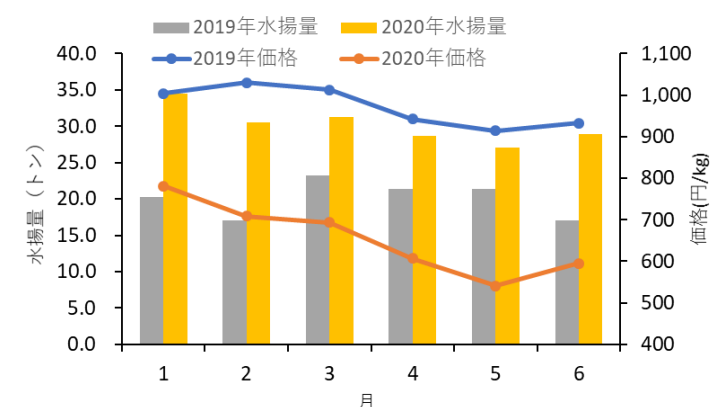


図 4. 養殖マダイの水揚量と価格の推移

- ④さば類は、1 月には水揚量が少なかったこともあり、平均価格が前年同月(115 円/kg)を 22%上回る 140 円/kg であった。その後は前年並みで推移し、4～6 月の平均価格は 86 円/kg で、前年同期(80 円/kg)と大きく変わらなかった(図 5)。

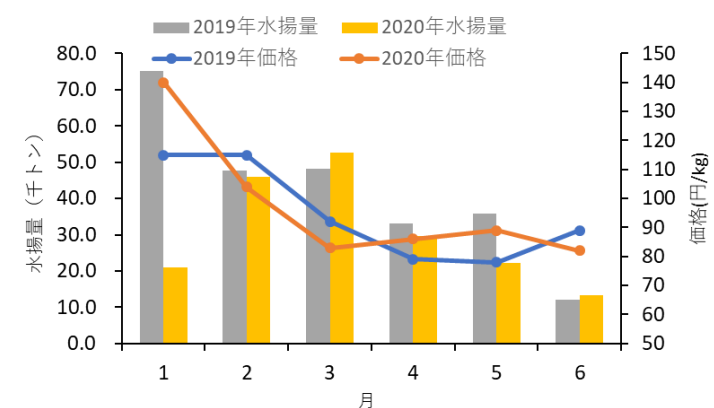


図 5. さば類の水揚量と価格の推移

- ⑤マイワシは、1～4 月の水揚げが好調で、水揚量は前年を上回ったものの、平均価格が下がるということはなく、1～6 月を

通して前年並みであった(図 6)。

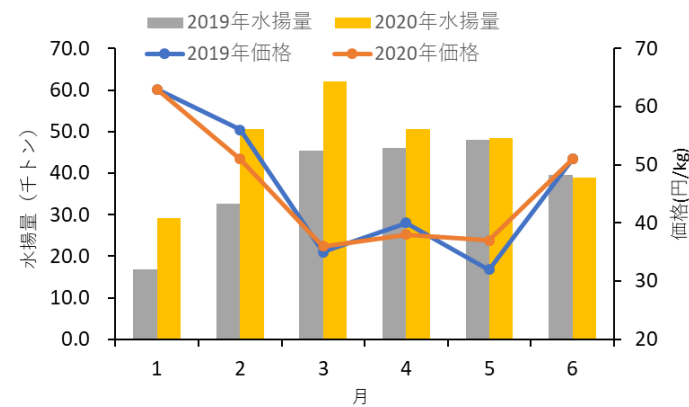


図 6. マイワシの水揚量と価格の推移

以上をまとめると、2020 年上半期は、平均価格が前年を下回る魚種が多かった。また、4 月には新型コロナウイルスの感染拡大に伴う緊急事態宣言が発令され、それ以降は、水揚量が前年同期を下回った魚種も含め、価格を下げた魚種が多かった。特に、高価格魚の多くで価格を下げたが、新型コロナウイルスの流行に伴う外出の自粛要請や飲食店の休業等により、需要が減ったことが影響したものと思われる。

一方で、マイワシやさば類の平均価格は、前年から大きく落ち込むことはなかった。これは、コロナ禍で外出が抑制される中、一定の家庭内需要に支えられたことや、輸出が好調であったことも影響したのではないかと考えられる。

水産物輸出から状況を見ると、本年 1～6 月の水産物輸出は、数量で 32 万 9 千トン、金額で 1,032 億円、平均価格は 314 円/kg であった。前年同期比では、数量で 6%減少、金額で 28%減少、平均価格は 23%減少した。そのうち、冷凍さば類の輸出量は 10 万 9 千トンで、輸出全体の 33%とウエイトが高く、前年同期を 11% 下回ったものの、輸出価格は 122 円/kg と前年同期並みであった。冷凍マイワシの輸出量は 6 万 1 千トンで、輸出全体の 19%を占め、前年同期比では、数量が 2%減少し、

平均価格が 82 円/kg で前年同期の 1 円高であった。これらのことから、マイワシやさば類は家庭内需要が高かったことに加え、こうした好調な輸出が、産地価格を底支えた要因の一つではないかと考えられる。

なお、主要 47 魚種の水揚量と平均価格についての詳細は、会員制水産情報サービス「おさかなひろば(<https://www.osakana-hiroba.jafic.jp/>)」を参照いただきたい。

(水産情報部)